

KYOTO UNIVERSITY LIBRARIES

38号館
情報処理実習室
利用手引き
【クライアントシステム】

第1.2版

2024年4月3日
KUDOS学生センター

改版履歴

日付	版数	内容
2018年9月13日	第1.0版	作成
2023年10月13日	第1.1版	部署名変更 【総合情報システム】⇒【KUDOS 学生センター】
2024年4月3日	第1.2版	<p>1.1.1. 教室レイアウト図 ・教室名変更 【第9情報処理実習室】⇒【38-S202】 【第10情報処理実習室】⇒【38-S203】 【多目的利用室】⇒【38-多目的利用室】 ・レイアウト図削除：第9、10情報処理実習室</p> <p>1.1.2. 設置機器 ・教室名削除：第9、10情報処理実習室</p> <p>1.1.3. 機器名称 ・教室名削除：第9、10情報処理実習室</p> <p>2. コンピュータのご利用可能なOSについて ・教室名削除：第9、10情報処理実習室</p> <p>2.1.2. 終了方法（サインアウト） ・文言削除：X, Z ドライブ</p> <p>2.4.1. Windows ・文言削除：X, Z ドライブ ・文言追記：G ドライブ (Google ドライブ)</p> <p>2.4.2. Scientific Linux ・文言削除：Z ドライブ</p> <p>3.1.1 KUDOS Print に対応したプリンター一覧 ・教室名削除：第9、10情報処理実習室</p> <p>3.1.2. KUDOS Print 対応プリンタ割振りレイアウト図 ・教室名削除：第9、10情報処理実習室 ・レイアウト図削除：第10情報処理実習室</p> <p>4.1.3. Linux での USB メモリの利用 ・文言削除：Z ドライブ</p>

目次

1.	情報処理実習室 概要	2
1.1.	教室概要	2
1.1.1.	教室レイアウト図	2
1.1.2.	設置機器	5
1.1.3.	機器名称	6
2.	コンピュータの利用方法	7
2.1.	Windows	7
2.1.1.	起動方法(サインイン)	7
2.1.2.	終了方法(サインアウト)	9
2.2.	Scientific Linux	10
2.2.1.	起動方法(ログイン)	10
2.2.2.	終了方法(シャットダウン)	11
2.3.	アプリケーションの利用	12
2.4.	利用できるドライブ・ファイルサーバ	13
2.4.1.	Windows	13
2.4.2.	Scientific Linux	15
3.	プリンタ、スキャナの利用方法	17
3.1.	KUDOS Print に対応したプリンタの利用	17
3.1.1.	KUDOS Print に対応したプリンター一覧	18
3.1.2.	KUDOS Print 対応プリンタ割振りレイアウト図	21
3.2.	スキャナの利用	23
4.	周辺機器の利用方法	24
4.1.	USB メモリの利用	24
4.1.1.	USB メモリの認識	24
4.1.2.	USB メモリの取り外し	24
4.1.3.	Linux での USB メモリの利用	25
4.2.	DVD スーパーマルチドライブの利用	26
4.2.1.	USB メモリのようにデータを追加したり削除したりできる書き込み方法	26
4.2.2.	CD/DVD プレーヤーでの再生に適した書き込み方法	28
5.	授業支援システムの利用	31
5.1.	授業支援システムの概要	31

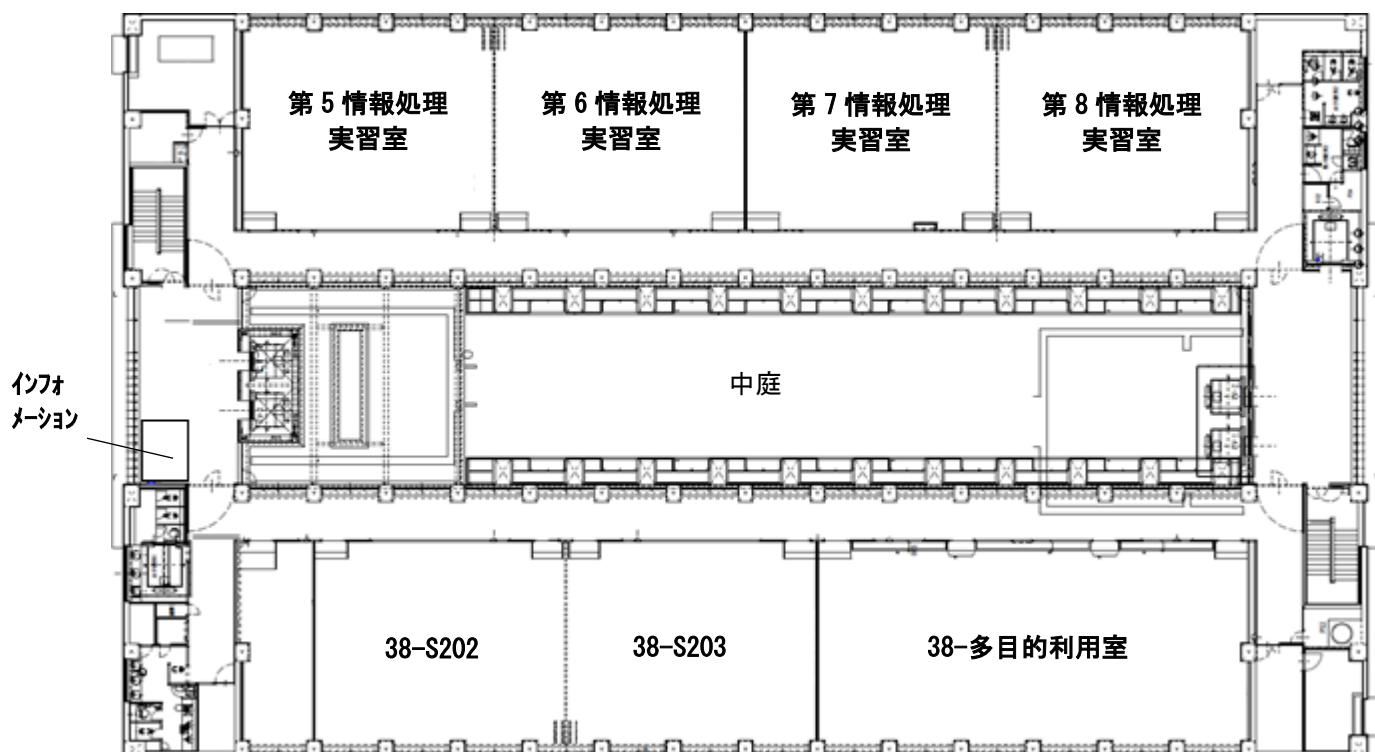
1. 情報処理実習室 概要

1.1. 教室概要

1.1.1. 教室レイアウト図

フロア全体図及び各教室のフロア図は次のとおりです。

◆ 全体フロア図 38号館 2F

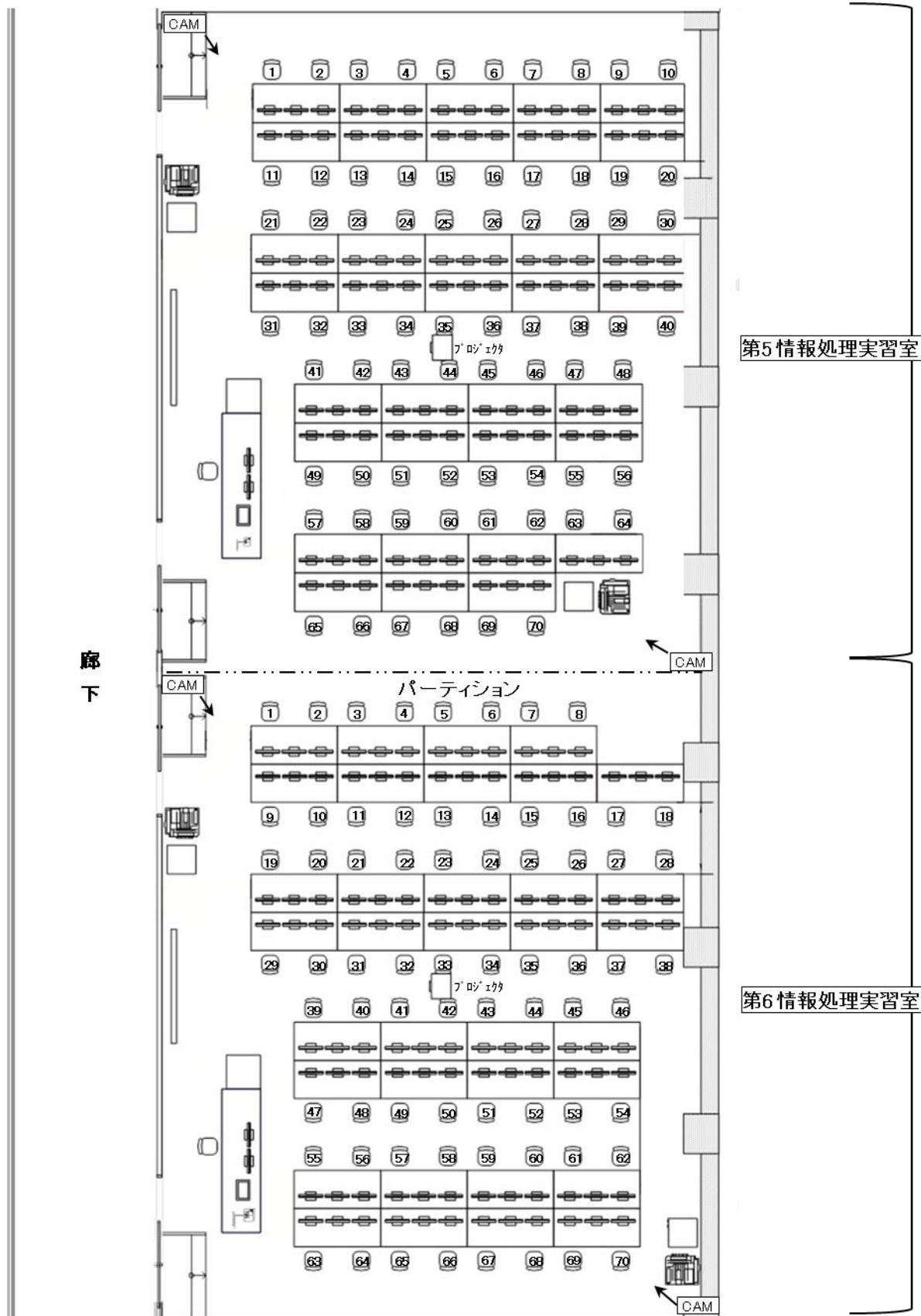


1.1 教室概要

◆ 第5・6情報処理実習室

(デスクトップPC：142台（学生機：70台×2教室、教員機：1台×2教室）)

※第5情報処理実習室と第6情報処理実習室間のパーティションを開放し、140台教室にすることが可能です。

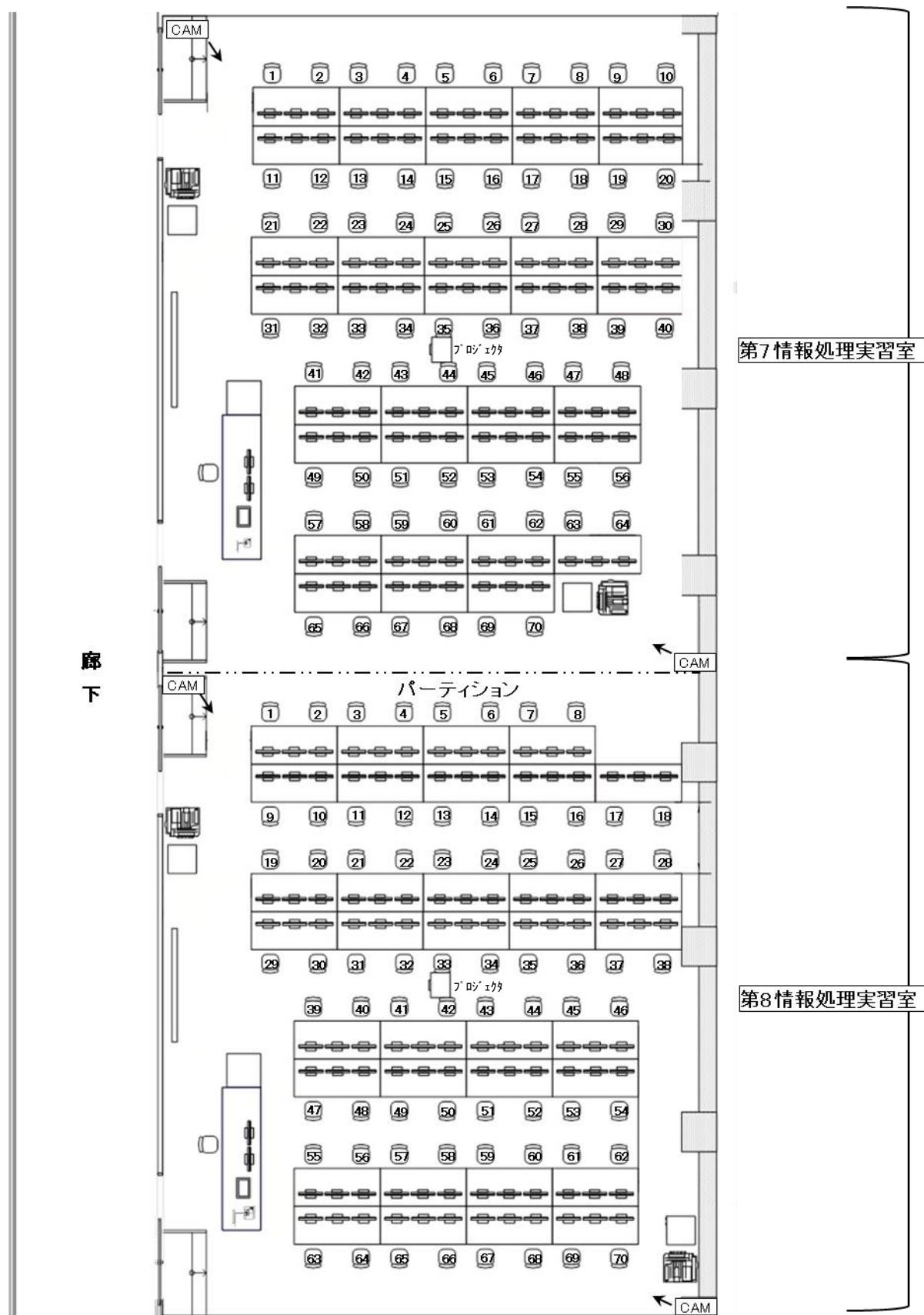


1.1 教室概要

◆ 第7・8情報処理実習室

(デスクトップPC: 142台 (学生機: 70台 × 2教室、教員機: 1台 × 2教室))

※第7情報処理実習室と第8情報処理実習室間のパーティションを開放し、140台教室にすることができます。



1.1 教室概要

1.1.2. 設置機器

各教室に設置されている PC 環境は以下の通りです。

◆ 第5・6・7・8 情報処理実習室

	機種(型名)	台数	詳細	イメージ
パソコン (学生用)	ESPRIMO D587/S	各教室 70 台	OS : Windows 10 Education (64bit) CPU : Core i3-7100 メモリ : 8GB HDD : 256GB SSD モニタ : 23.8 型ワイドモニタ 光学ドライブ : スーパーマルチ マウス : USB レーザーマウス ディスプレイ : 23型ワイド液晶	
		各教室 1 台		
Blu-ray ドライブ	LBD-PVA6U3VBK	各教室 1 台	接続インターフェース : USB3.1 設置方式 : 外付け ※教員機に設置	
プリンタ スキャナ	ApeosPort-VI C4471	各教室 2 台	カラーレーザープリンタ 用紙トレイ A5~A3 対応 自動両面原稿送り装置付フラット ベットカラースキャナ	

◆ 貸出機器

名称	機種(型名)	台数	説明	イメージ
ヘッドセット	-	71 個(1 教室) × 2 セット (計 142 個)	ヘッドセット	
メモリ カードリーダ	ADR-ML18BKN	5 台	xD ピクチャーカード・スマートメディア(3.3V) 対応スロット×1 SD メモリーカードスロット×1 microSD カード専用スロット×1 メモリースティック専用スロット×1 コンパクトフラッシュ (Type I) スロット×1	
WEB カメラ	HD WEBCAM C615	3 台	折り畳み WEB カメラ	
USB マイク スピーカー	YVC-300	3 台	遠隔会議用	
三脚	-	3 台	カメラ三脚 (4 段階) ※WEB カメラ使用時に利用	

AV 機器の一覧については、KUDOS WEB サイト「38号館情報処理実習室【授業支援システム】利用手引き」よりご確認ください。<https://kudos.kindai.ac.jp/manual>

1.1.3. 機器名称

◆ 第5~8情報処理実習室 (ESPRIMO D587/S)



2. コンピュータの利用方法

コンピュータのご利用可能な OS について

2018年9月現在におきまして、各教室に導入されているOSは以下となっております。

【第5・6・7・8情報処理実習室】

- Windows 10 Education
- Scientific Linux 6.9

2.1. Windows

2.1.1. 起動方法（サインイン）

コンピュータを利用するにはサインインする必要があります。

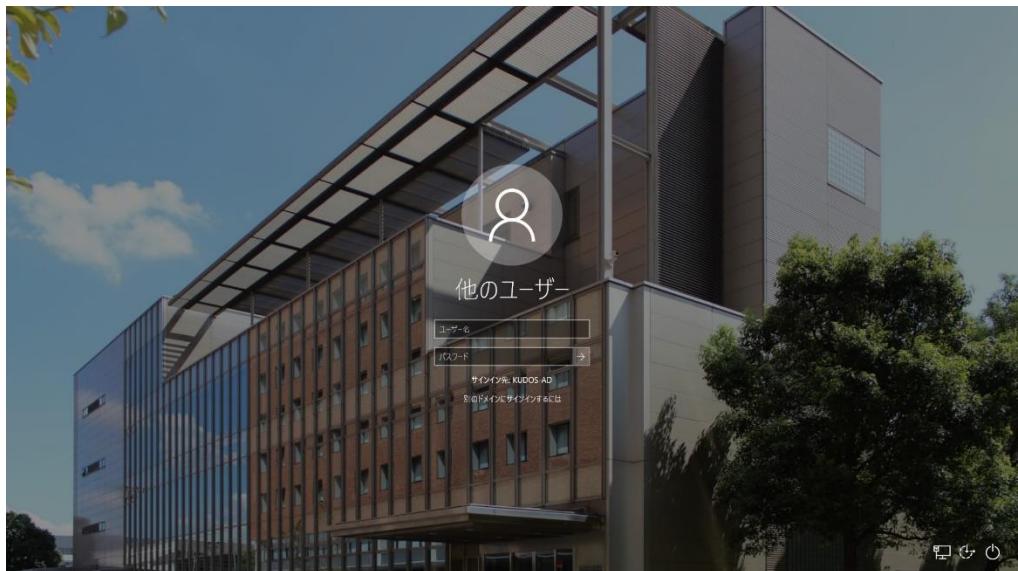
KUDOS発行のユーザーID（教育系・事務系）とパスワードを入力し、ドメイン「KUDOS-AD」が選択されていることを確認してサインインしてください。

※教員機は、教員権限のあるユーザーのみサインインできます。

- ① キーボードを押すか、もしくはマウスをクリックします。



- ② KUDOS 発行のユーザーID（教育系・事務系）とパスワードを入力し、ボタンをクリックします。



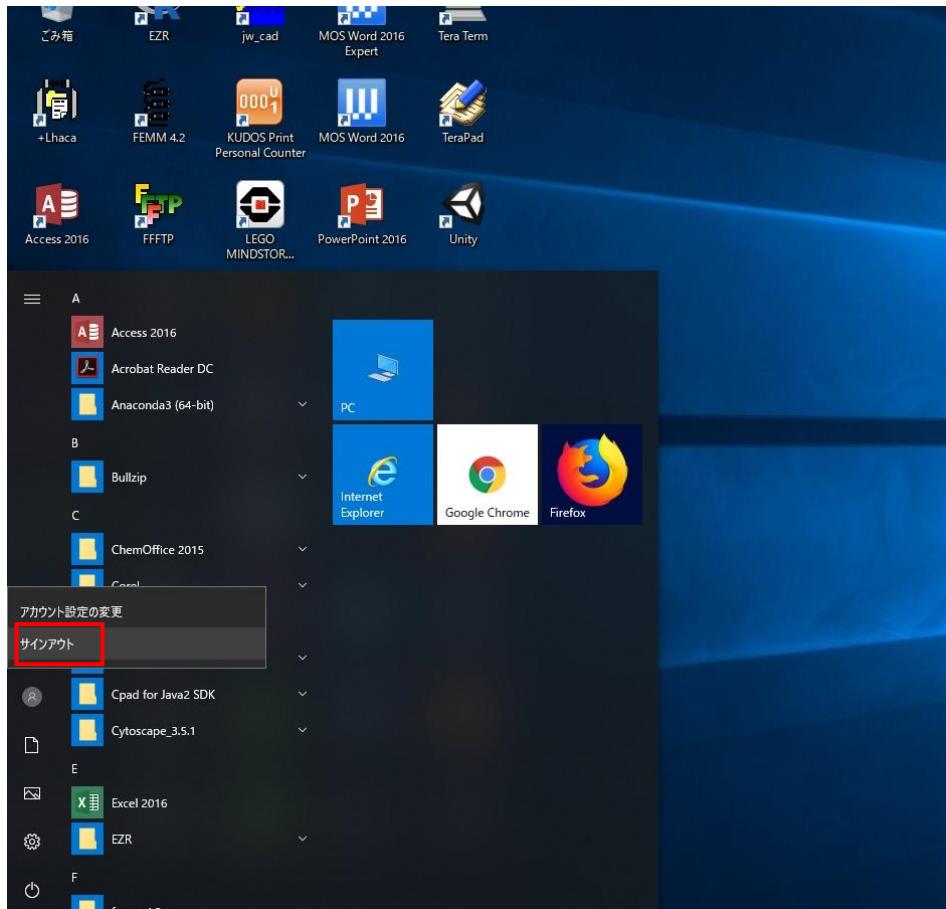
- ③ コンピュータにサインインすると、全ユーザー共通で下図のようなデスクトップ環境が利用できます。



！ 注意 ユーザー名とパスワードの入力を 20 回以上間違えると、ロックがかかります。
数分間サインインできなくなりますので、ご注意ください。

2.1.2. 終了方法（サインアウト）

- ① [スタート]ボタン  をクリックします。
- ② ユーザーアイコン  をクリックし、[サインアウト]ボタンをクリックします。



注意

パソコン利用後は「シャットダウン」せずに「サインアウト」をしてください。
デスクトップに保存されたファイルは、コンピュータを再起動すると消去されます。
ドキュメントに保存されたファイルも同様にコンピュータを再起動すると消去されます。

2.2. Scientific Linux

Scientific Linux は WindowsOS 上で Virtual Box 仮想環境により提供されます。

2.2.1. 起動方法（ログイン）

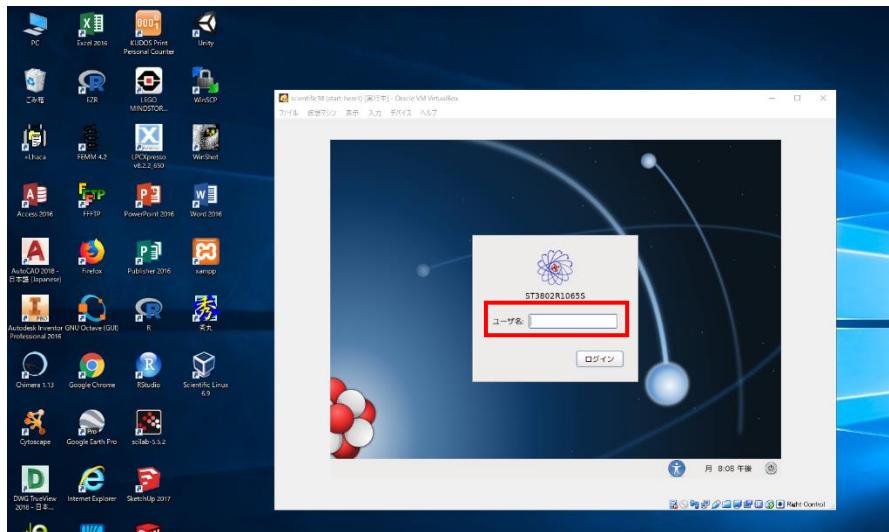
- ① デスクトップ上の「Scientific Linux」をダブルクリックします。



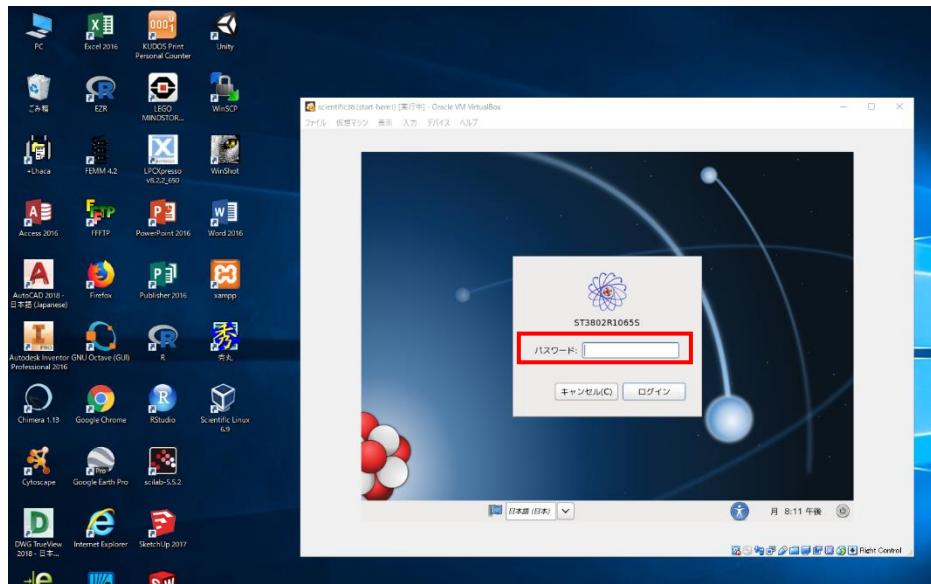
- ② 画面左上に起動準備中のメッセージが表示されます。



- ③ Virtual Box 仮想環境上の Scientific Linux が起動ますので、KUDOS 発行のユーザーID（教育系のみ）を入力し、ログインをクリックしてください。

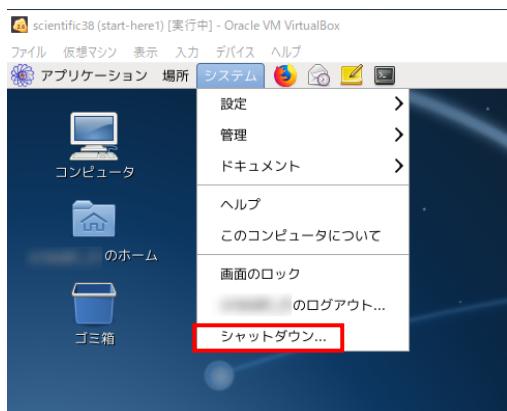


- ④ パスワードを入力し、ログインをクリックしてください。



2.2.2. 終了方法（シャットダウン）

- ① OS メニューの「システム」より「シャットダウン」をクリックします。



- ② 「このシステムを今すぐシャットダウンしますか？」と表示されるので「シャットダウン」をクリックします。

シャットダウン完了後に Virtual Box 仮想環境上の Scientific Linux が終了します。



2.3. アプリケーションの利用

アプリケーションを起動するには以下の 2 通りの方法があります。

- ◆ デスクトップのアイコンをダブルクリック
- ◆ スタートメニューのアイコンをクリック



利用できるアプリケーションは、教室により異なります。

※最新の状況については、KUDOS WEB サイト「ソフトウェア・ハードウェア検索」

(<https://kudos.kindai.ac.jp/guide/sh>)

もしくは、KUDOS の公式スマートフォンアプリ「KUDOS APP」よりご確認ください。

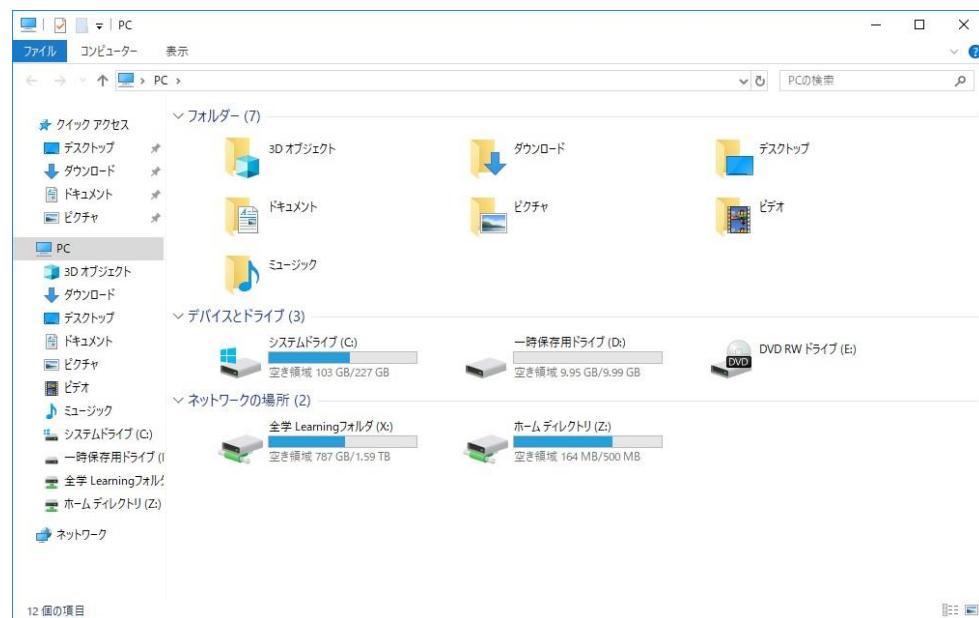
(<https://kudos.kindai.ac.jp/app>)

2.4. 利用できるドライブ・ファイルサーバ

コンピュータにログオンすると全ユーザー共通で、以下の各ドライブが割り当てられます。教室内のコンピュータで作成したファイルなどのデータは Google ドライブへ保存するか CD/DVD・USB メモリなどへ保存してください。

2.4.1. Windows

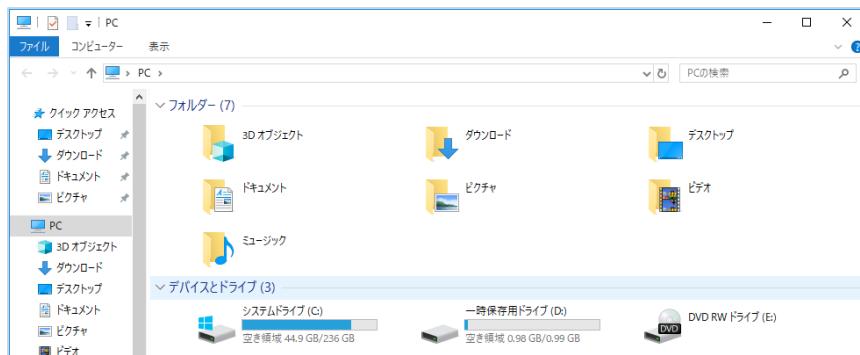
コンピュータにログオンすると全ユーザー共通で、以下の各ドライブが割り当てられます。



ドライブ	説明
C	OS やアプリケーションのためのシステムドライブです。再起動すると、初期状態に戻るため、保存データは全て破棄されます。
D	テンポラリー領域です。再起動を行ってもデータは消えませんが毎週月曜日早朝にすべて削除します。
E	CD-R/RW、DVD±R/RW、DVD-RAM が利用できるスーパーマルチドライブです。
F~W	カードリーダーライターや USB フラッシュメモリが自動的に割り当てられます。
G (Google ドライブ)	Google ドライブ (Google Drive) は Google が提供するクラウドストレージです。スマートフォンやパソコンからもアクセスすることができます。また、共有、共同編集することができます。

2.4 利用できるドライブ・ファイルサーバ

パソコンにて利用可能なドライブ・ファイルサーバを確認するには、サインイン後、[スタート]ボタンより[PC]をクリックします。



注意

C ドライブ（デスクトップ・マイドキュメントフォルダも含まれます）に保存されたファイルはパソコンを再起動すると消去されます。C ドライブに保存されたデータに関しては保証いたしかねますのでご注意ください。

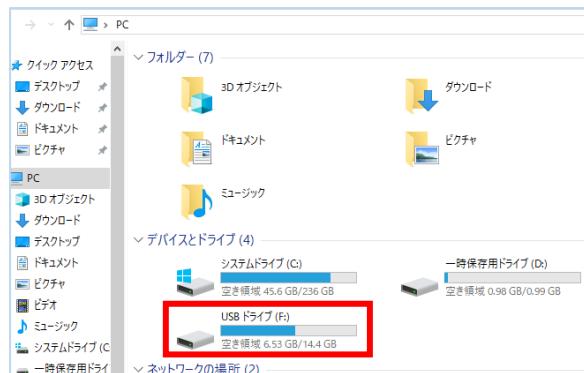
教室内のパソコンで作成したファイルなどのデータは、Google ドライブまたは CD/DVD・USB メモリなど外部記録メディア（（E：）～（M：））へ保存してください。



USB

USB フラッシュメモリなど USB 機器が利用できます。

- ① USB メモリを USB ポートに差し込みます。
- ② 「PC」の「デバイスとドライブ」に「ボリューム」が表示され、USB メモリが利用できます。



USB メモリの利用を終了してパソコンから取り外す場合は、次の手順で操作します。

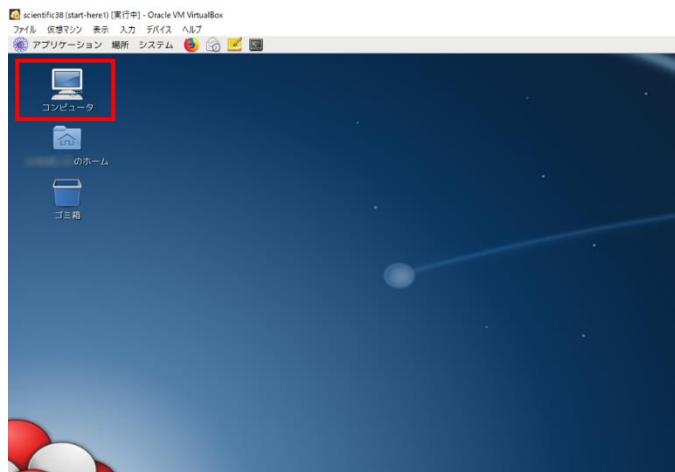
- ① USB メモリを参照しているウィンドウをすべて終了します。
- ② タスクバー右端のタスクトレイ表示部分の をクリックします。
- ③ 「○○の取り出し」をクリックします。
- ④ コンピュータ本体から USB メモリを取り外します。

2.4 利用できるドライブ・ファイルサーバ

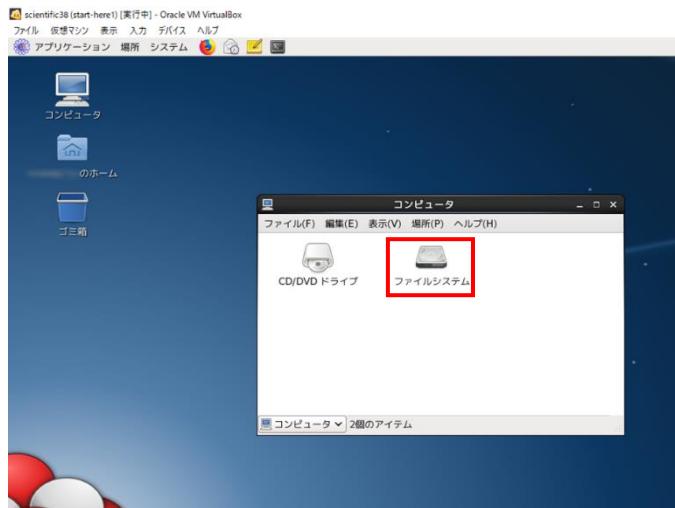
2.4.2 Scientific Linux

Scientific Linux にログオンすると全ユーザー共通で、以下の各ドライブが割り当てられます。

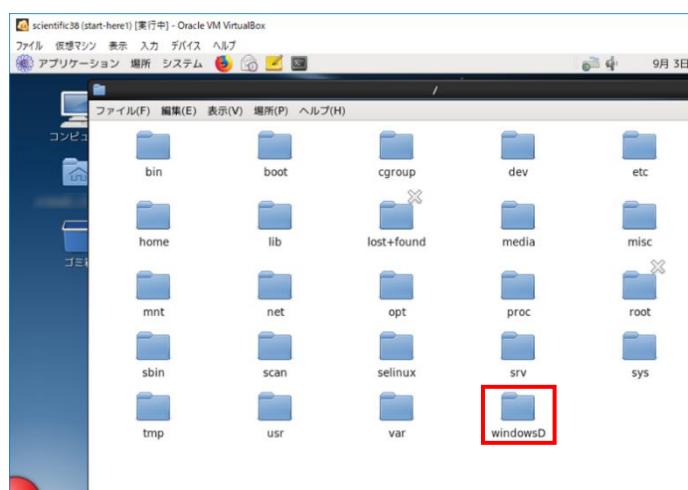
- ① Scientific Linux ヘログインし、デスクトップ上の「コンピュータ」をクリックします。



- ② 「ファイルシステム」をクリックします。



- ③ 開いたフォルダ内に、WindowsD フォルダがあります。



2.4 利用できるドライブ・ファイルサーバ

WindowsD に作成されたファイルは、Windows と Scientific Linux 間で共有することができます。

ドライブ	説明
WindowsD※1	テンポラリー領域です。再起動を行ってもデータは消えませんが毎週月曜日早晨にすべて削除されます。

※1 : Windows 上の D ドライブとなります。

◆ USB

Virtual Box 仮想環境上の Scientific Linux では直接ご持参の USB メモリへのデータの書き込みや読み出しおよび、CD-R/DVD-R メディアへの書き込みが行えません。そのため、以下の手順により Windows 経由でデータ交換を行ってください。

- ① 「4.1.3 Linux での USB メモリの利用」に示す手順で、windowsD のあるフォルダに移動する。

- ② USB メモリを Windows 端末の USB ポートに接続し、Windows の D ドライブで、データの移動を行ってください。

3. プリンタ、スキャナの利用方法

各情報処理実習室には、KUDOS Print に対応したプリンタが設置されています。

授業中はポイントを消費せず印刷できますが、自由利用時ではポイントを消費して印刷する必要があります。

スキャナの機能も利用可能です。

3.1. KUDOS Print に対応したプリンタの利用

KUDOS Print に対応したプリンタが設置されている教室では、時間帯別に以下のモードが設定されています。

No	モード名称	説明
1	ポイントモード	<p>自由利用となっている教室に設定されているモードです。 ポイントモードでは印刷を行うとプリント実績値が加算されます。</p> <p>プリント実績値がプリント上限値に達している場合や、プリント上限値を超えるような印刷を行おうとした場合、そのままでは印刷できませんのでポイントを別途購入する必要があります。</p> <p>プリント実績値とは：「どれだけ印刷したか」を示す値です。 プリント上限値とは：「どれだけ印刷できるか」を示す値です。</p>
2	授業モード	<p>授業中の教室に設定されているモードです。 授業モードでは印刷を行ってもプリント実績値が加算されることはありません。</p> <p>また、プリント実績値がプリント上限値を超過していても印刷できます。</p>

※Windows のデフォルト印刷カラーは白黒です。適宜手動で変更してください。

Linux のデフォルト印刷カラーは自動判別です。

デフォルト印刷カラーに気を付けて、印刷をお願いします。

※詳細は KUDOS WEB の KUDOS Print 説明ページより「KUDOS Print マニュアル(PC 教室) 利用マニュアル」をご参照ください。(<https://kudos.kindai.ac.jp/service/print/pcroom>)

3.1 KUDOS Print に対応したプリンタの利用

3.1.1. KUDOS Print に対応したプリンター一覧

ユーザーの「通常使うプリンタ」はコンピュータの場所によって自動的に割り振られます。「通常使うプリンタ」が何らかの障害で利用できないときは、印刷時に別のプリンタを指定してください。

プリンター一覧(Windows)

教室名	装置名	号機	プリンタ名
第 5 情報処理 実習室	プリンタ	1 号機	38 号館_N-201_1 号機 38 号館_N-201_1 号機(予備)
		2 号機	38 号館_N-201_2 号機 38 号館_N-201_2 号機(予備)
第 6 情報処理 実習室	プリンタ	1 号機	38 号館_N-202_1 号機 38 号館_N-202_1 号機(予備)
		2 号機	38 号館_N-202_2 号機 38 号館_N-202_2 号機(予備)
第 7 情報処理 実習室	プリンタ	1 号機	38 号館_N-203_1 号機 38 号館_N-203_1 号機(予備)
		2 号機	38 号館_N-203_2 号機 38 号館_N-203_2 号機(予備)
第 8 情報処理 実習室	プリンタ	1 号機	38 号館_N-204_1 号機 38 号館_N-204_1 号機(予備)
		2 号機	38 号館_N-204_2 号機 38 号館_N-204_2 号機(予備)

プリンター一覧(Scientific Linux)

教室名	装置名	号機	プリンタ名
第 5 情報処理 実習室	プリンタ	1 号機	build38_N-201_No1_A4 build38_N-201_No1_A3 build38_N-201_No1_B4 build38_N-201_No1_B5 build38_N-201_No1(sub)_A4 build38_N-201_No1(sub)_A3 build38_N-201_No1(sub)_B4 build38_N-201_No1(sub)_B5
		2 号機	build38_N-201_No2_A4 build38_N-201_No2_A3 build38_N-201_No2_B4 build38_N-201_No2_B5 build38_N-201_No2(sub)_A4 build38_N-201_No2(sub)_A3 build38_N-201_No2(sub)_B4 build38_N-201_No2(sub)_B5

3.1 KUDOS Print に対応したプリンタの利用

教室名	装置名	号機	プリンタ名
第 6 情報処理 実習室	プリンタ	1 号機	build38_N-202_No1_A4 build38_N-202_No1_A3 build38_N-202_No1_B4 build38_N-202_No1_B5 build38_N-202_No1(sub)_A4 build38_N-202_No1(sub)_A3 build38_N-202_No1(sub)_B4 build38_N-202_No1(sub)_B5
		2 号機	build38_N-202_No2_A4 build38_N-202_No2_A3 build38_N-202_No2_B4 build38_N-202_No2_B5 build38_N-202_No2(sub)_A4 build38_N-202_No2(sub)_A3 build38_N-202_No2(sub)_B4 build38_N-202_No2(sub)_B5
第 7 情報処理 実習室	プリンタ	1 号機	build38_N-203_No1_A4 build38_N-203_No1_A3 build38_N-203_No1_B4 build38_N-203_No1_B5 build38_N-203_No1(sub)_A4 build38_N-203_No1(sub)_A3 build38_N-203_No1(sub)_B4 build38_N-203_No1(sub)_B5
		2 号機	build38_N-203_No2_A4 build38_N-203_No2_A3 build38_N-203_No2_B4 build38_N-203_No2_B5 build38_N-203_No2(sub)_A4 build38_N-203_No2(sub)_A3 build38_N-203_No2(sub)_B4 build38_N-203_No2(sub)_B5
第 8 情報処理 実習室	プリンタ	1 号機	build38_N-204_No1_A4 build38_N-204_No1_A3 build38_N-204_No1_B4 build38_N-204_No1_B5 build38_N-204_No1(sub)_A4 build38_N-204_No1(sub)_A3 build38_N-204_No1(sub)_B4 build38_N-204_No1(sub)_B5

3.1 KUDOS Print に対応したプリンタの利用

教室名	装置名	号機	プリンタ名
		2 号機	build38_N-204_No2_A4 build38_N-204_No2_A3 build38_N-204_No2_B4 build38_N-204_No2_B5 build38_N-204_No2(sub)_A4 build38_N-204_No2(sub)_A3 build38_N-204_No2(sub)_B4 build38_N-204_No2(sub)_B5

3.1 KUDOS Print に対応したプリンタの利用

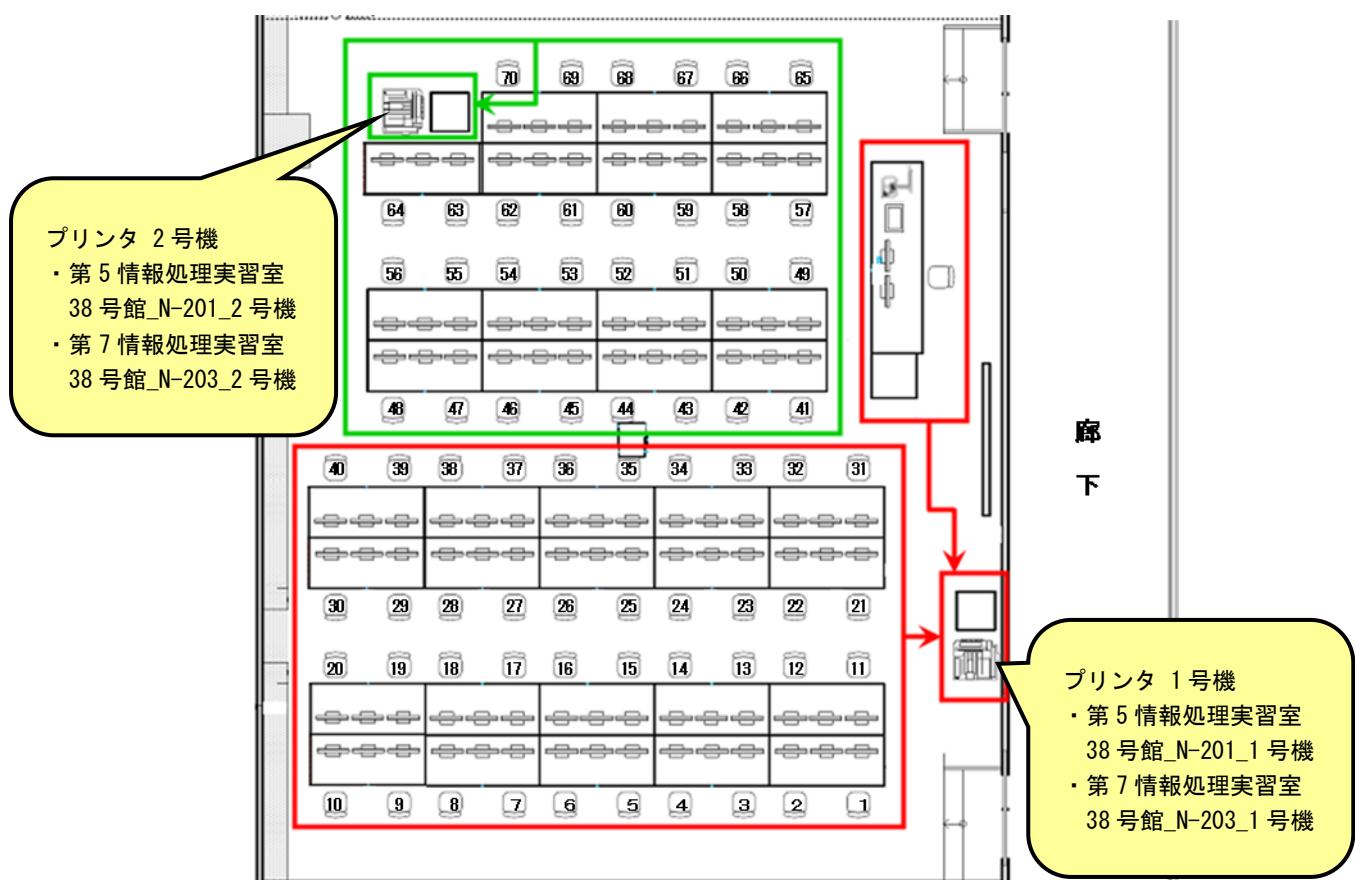
3.1.2. KUDOS Print 対応プリンタ割振りレイアウト図

KUDOS Print 対応プリンタが設置されている教室における各端末のデフォルト設定時の割振りは以下の通りです。

教員機は各教室共に 1 号機へ出力されます。

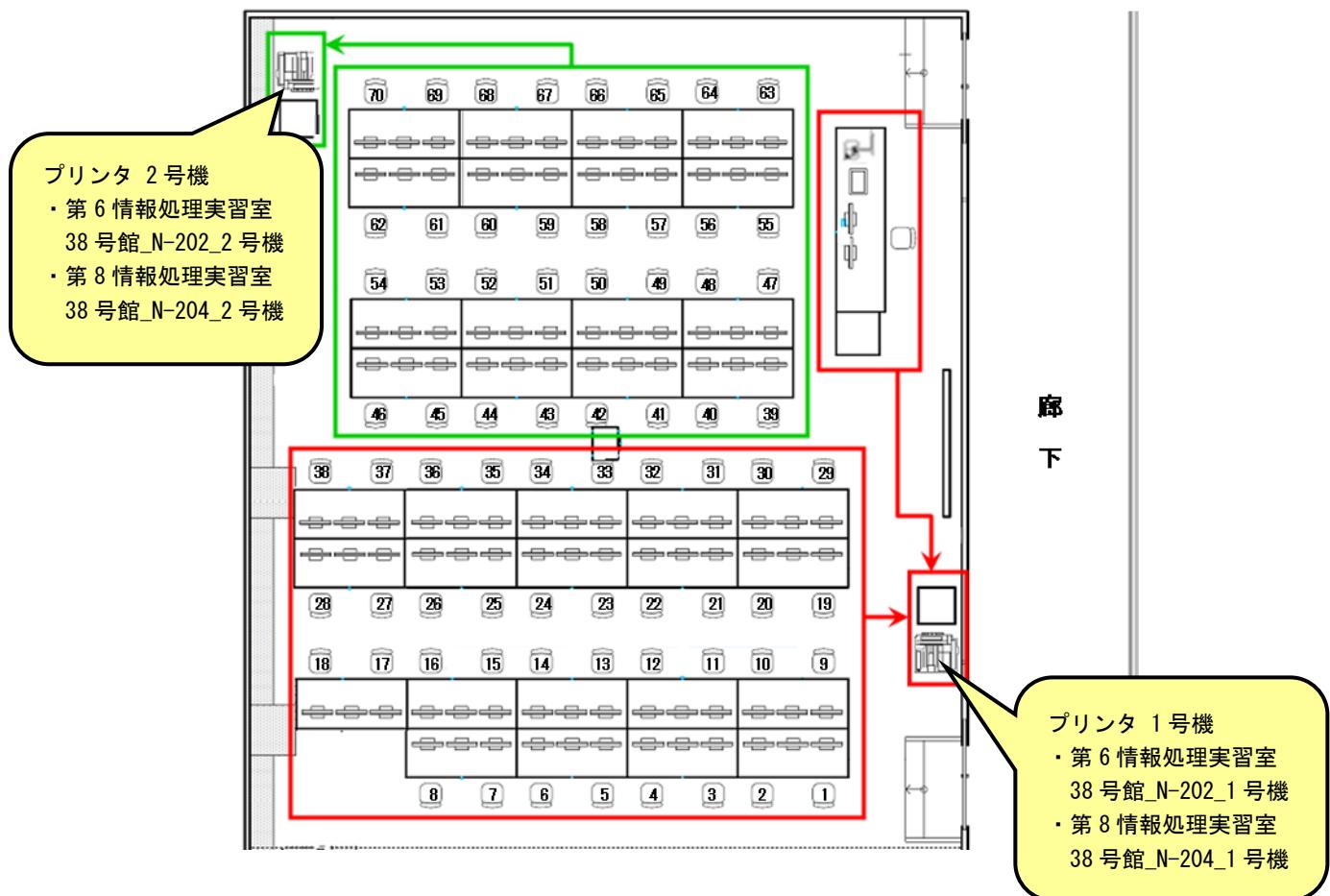
◆ 第 5・7 情報処理実習室

※赤枠は 1 号機、緑枠は 2 号機が使用可能なプリンタ ※デフォルト設定



◆ 第6・8情報処理実習室

※赤枠は1号機、緑枠は2号機が使用可能なプリンタ ※デフォルト設定



3.2. スキャナの利用

※KUDOS Print に対応したプリンタのスキャナの利用については、KUDOS WEB の KUDOS Print 説明ページより「KUDOS Print マニュアル(PC 教室)利用マニュアル」をご参照ください。
(<https://kudos.kindai.ac.jp/service/print/pcroom>)

4. 周辺機器の利用方法

4.1. USB メモリの利用

4.1.1. USB メモリの認識

◆ Windows

- ① USB メモリを USB ポートに差し込みます。
 - 複数ある場合は、どのポートに差し込んでもかまいません。

- ② 「コンピュータ」の「リムーバブル記憶域があるデバイス」に「リムーバブルディスク」が表示され、USB メモリが利用できます。



4.1.2. USB メモリの取り外し

◆ Windows

USB メモリの利用を終了してコンピュータから取り外す場合は、次の手順で操作します。

- ① USB メモリを参照しているウィンドウをすべて終了します。

- ② タスクバー右端のインジケータ表示部分の をクリックし、 をクリックします。

- ③ 「○○の取り出し」をクリックします。
 - 「○○」には USB メモリの名称が入ります。

- ④ 《ハードウェアの取り外し》が表示されます。
[×] ボタンをクリックし、メッセージを閉じます。

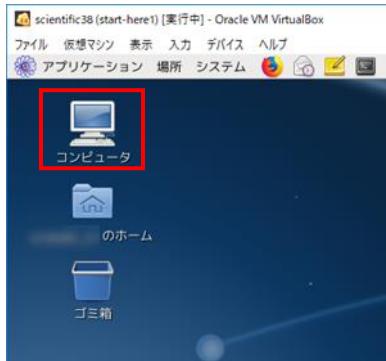
- ⑤ コンピュータ本体から USB メモリを取り外します。

4.1.3. Linux での USB メモリの利用

◆ Scientific Linux

Virtual Box 仮想環境上の Scientific Linux では直接ご持参の USB メモリへのデータの書き込みや読み出しあり、CD-R/DVD-R メディアへの書き込みが行えません。そのため、以下の手順により Windows 経由でデータ交換を行ってください。

- ① Linux にログインし、デスクトップ上の「コンピュータ」をダブルクリックします。



- ② 「ファイルシステム」→「windowsD」の順に選択します。

※例では「windowsD」を選択しています。



WindowsD に作成されたファイルは Windows と Linux の間で共有することができます。

WindowsD の関連付けは以下の通りです。

Linux 系 OS(Vine, Scientific)	Windows
WindowsD	D ドライブ

- ③ 「4.1.1 USB メモリの認識」を参照し Windows の D ドライブからデータを USB メモリに移してください。

4.2. DVD スーパーマルチ ドライブの利用

コンピュータに内蔵されているオプティカルドライブは DVD スーパーマルチ ドライブとなっており、CD-ROM/R/RW、DVD±R/RW、DVD-RAM、DVD±R（2層）が利用できます。

デスクトップパソコン本体の中央の「EJECT」ボタンを押し、メディアを挿入ください。

データ書き込み可能な空のディスクがあれば、データを書き込むことができます。

書き込み方法は、「4.2.1 USB メモリのようにデータを追加したり削除したりできる書き込み方法」とび、「4.2.2 CD/DVD プレーヤーでの再生に適した書き込み方法」に記載の2通りの方法があります。

4.2.1. USB メモリのようにデータを追加したり削除したりできる書き込み方法

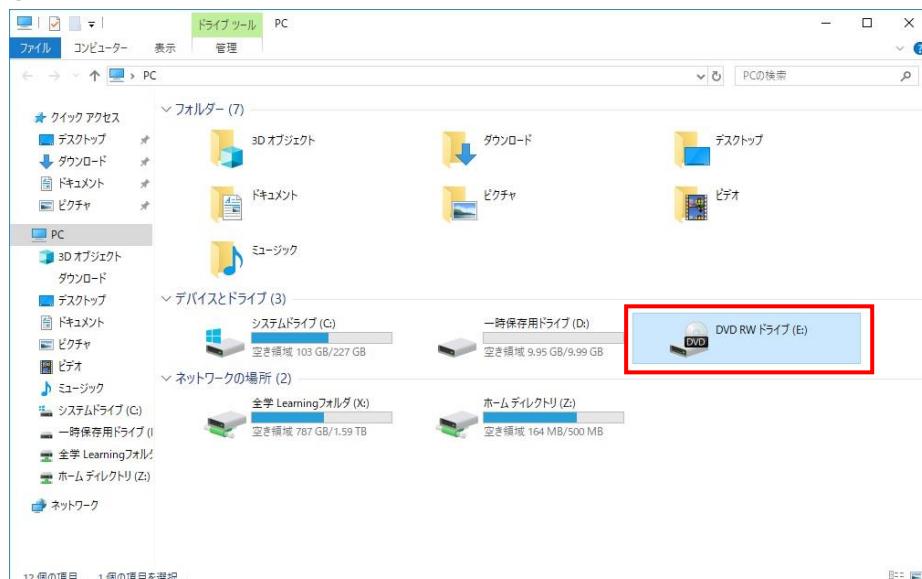
USB フラッシュ ドライブやフロッピーディスクと同じように、データを追加したり削除したりすることができます。

Windows PC であれば、他の PC でも読み書きができます。

◆ Windows

【ディスクのフォーマット】

- ① DVD ドライブへブランクのディスクを挿入します。
- ② 「PC」のデバイスとドライブより、DVD RW ドライブ(E:)をクリックします。

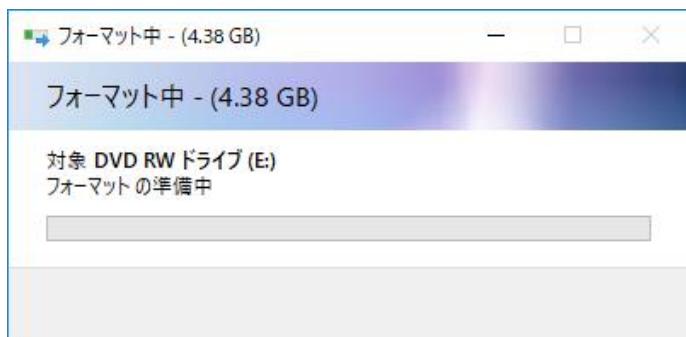


- ③ 「ディスクの書き込み」が表示されますので、ディスクのタイトルを入力し、「USB フラッシュ ドライブと同じように使用する」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



4.2 DVD スーパーマルチ ドライブの利用

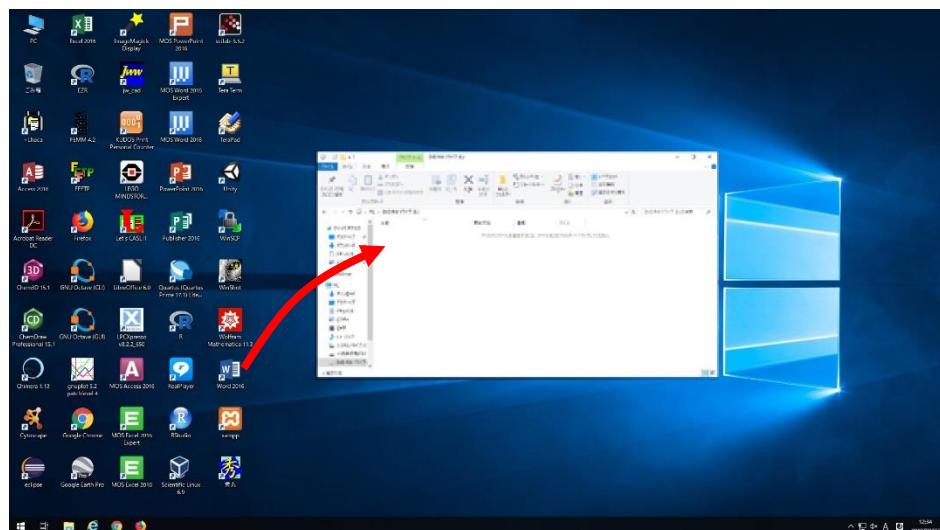
④ フォーマットが開始されます。終了するまで待ちます。



⑤ フォーマットが完了すると、自動再生の確認画面が表示されます。

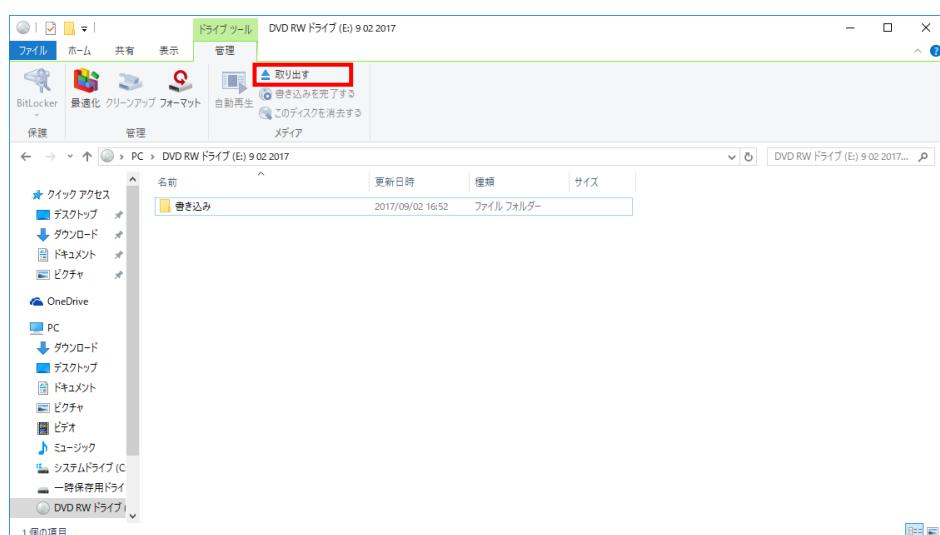
【データの書き込み】

⑥ 書き込むファイルをエクスプローラーの DVD ドライブにドラッグ & ドロップします。
(コピー、貼り付けでもかまいません。)



【取り出し】

⑦ 「管理」をクリックし、「取り出す」をクリックし、メディアを取り出します。



4.2 DVD スーパーマルチ ドライブの利用

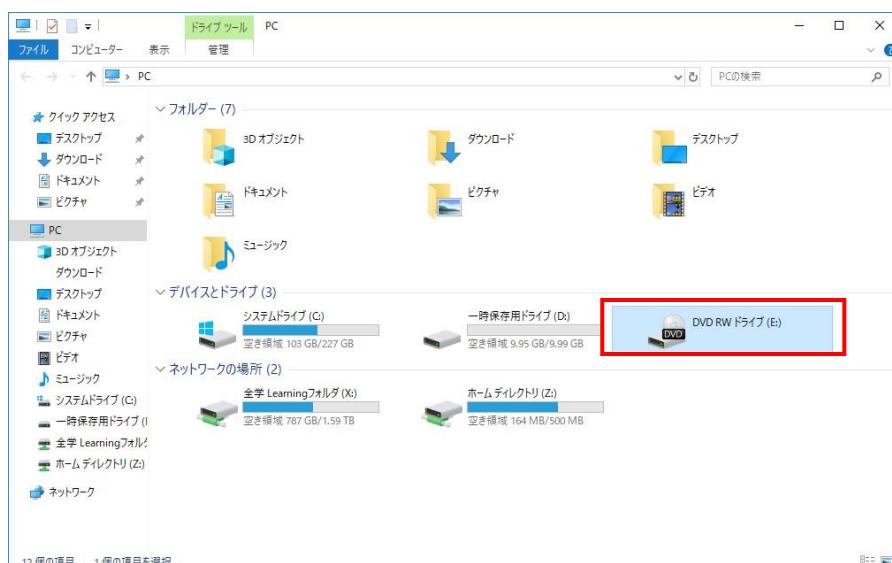
4.2.2. CD/DVD プレーヤーでの再生に適した書き込み方法

MacOS を含め、他のコンピュータで CD や DVD として利用できる書き込み方法です。
ファイルはすぐにはコピーされません。一度にまとめて書き込みます。

◆ Windows

【ディスクの挿入】

- ① DVD ドライブへブランクのディスクを挿入します。
- ② 「PC」のデバイスとドライブより、DVD RW ドライブ(E:)をクリックします。



【データの書き込み】

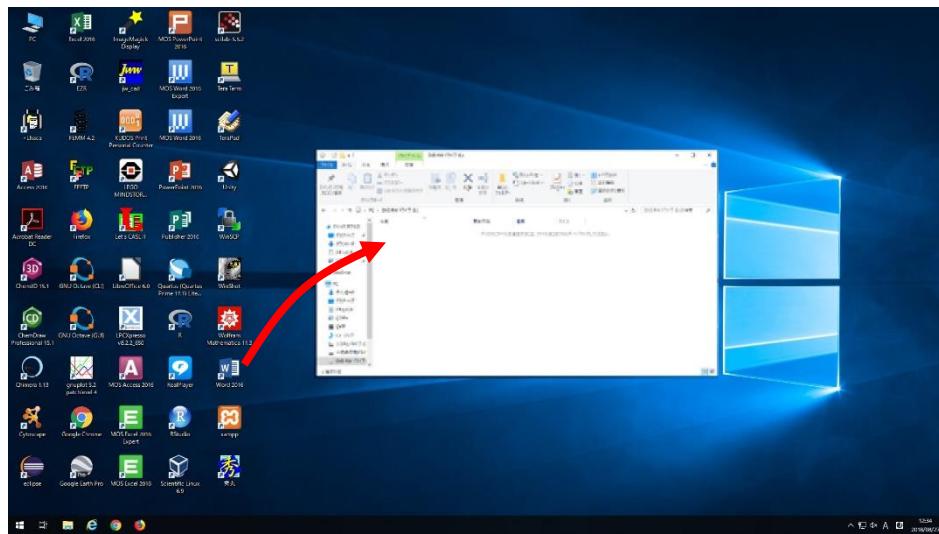
- ③ 「ディスクの書き込み」が表示されますので、「CD/DVD プレーヤーで使用する」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



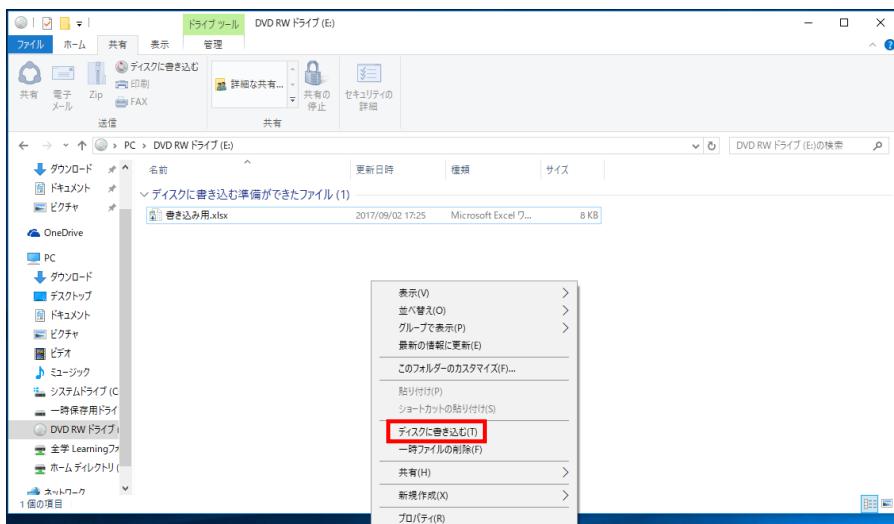
- ④ ドライブが表示されます。

4.2 DVD スーパーマルチ ドライブの利用

- ⑤ 書き込むファイルをエクスプローラーの DVD ドライブにドラッグ & ドロップします。
(コピー、貼り付けでもかまいません。)



- ⑥ 書き込むファイルをすべて DVD ドライブへドロップしたら、マウスの右クリックを押し、「ディスクに書き込む」を実行します。

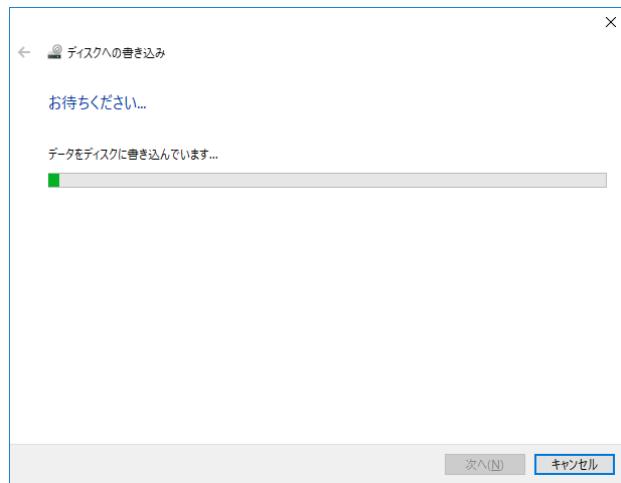


「ディスクに書き込む」を実行しないと、実際にディスクに書き込まれません。

- ⑦ 「ディスクへの書き込みウィザード」が開始されますので、ディスクタイトルを入力します。【次へ】ボタンをクリックします。

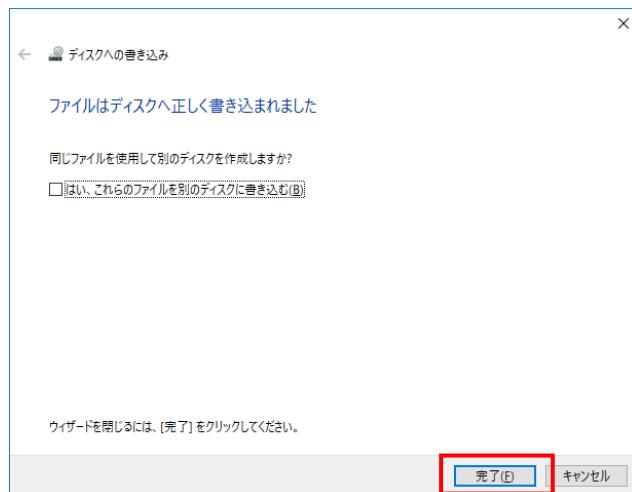


- ⑧ ディスクに書き込みが実行されます。終了するまで待ちます。



- ⑨ 完了するとディスクが排出されます。〔完了〕ボタンをクリックします。

※もう1枚のディスクに同じファイルを書き込む場合は、「はい、これらのファイルを別のディスクに書き込む」をチェックして〔完了〕ボタンをクリックしてウィザードを継続してください。



5. 授業支援システムの利用

5.1. 授業支援システムの概要

授業支援システムは、以下により構成されます。

- ・**画像・音声提示装置による各機能**

教卓上のリモート操作パネルを操作することで、学習者に教材となる画像や音声を提示することができます。

- ・**授業支援ソフトウェアによる各機能**

教員 PC にセットアップされた授業支援ソフトウェアの制御画面を操作することで、出席管理や、学習者 PC の操作禁止などの各機能を利用できます。

詳しい操作方法などについては、KUDOS WEB の「38 号館情報処理実習室利用手引き【授業支援システム】利用手引き」よりご確認ください。<https://kudos.kindai.ac.jp/manual>